開会あいさつ

# 『協同』のための北海道集会の成功を

『協同』のための北海道集会実行委員長
山田　定市（北海道大学教育学部）

みなさん、おはようございます。ただ今ご紹介にあずかりました、集会の実行委員長を仰せつかっております北大教育学部の山田でございます。まず初めに、北海道の各地から、そして全国からこの「『協同』のための北海道集会」に結集された皆さんに実行委員会を代表致しまして心から歓迎の意を表したいと思います。北海道で協同という名のもとに広範な領域と内容にわたる協同活動について、一同に会して共通のテーブルにつき経験を交流し、議論するということは北海道では初めてのことでございます。

## 実行委員会でのとりくみ

北海道集会を持つに至りました直接の契機は、昨年6月に京都で開かれた「今『協同』を問う'92全国集会」の圧倒的な成功にございます。この集会は中高年事業団、生協・農協をはじめとする協同組合ならびに協同組合の労働組合、中小企業団体、医療福祉・教育・保育・文化団体、研究者など600名を上回る人が参加して、共通の問題意識で幅広い交流と討論を行い、協同活動の現代的意義と展望を明らかにしたものでございました。この集会には北海道からも10名を上回る参加者がございましたが、そのすばらしい内容に感銘し、北海道でもぜひこのような集会を開きたいという思いを共通に持った次第でございます。そのような思いは、やがて単なる思いから計画へと具体化し、昨年の暮れにそのための準備会が持たれまして、1月19日に実行委員会が発足致しました。以後、5回にわたる実行委員会と10回を上回る事務局会議を経てその準備にあたってまいりました。

この中で、まず集会のメインテーマをどのようにするかを巡りましていろいろ議論を重ねてまいりましたが、落ち着いたテーマは、あらかじめ示してございますように「『協同』で切り開く地域づくり・仕事おこし」というテーマでございまして、このテーマは北海道が今直面している問題とそれを打開する展望を端的に表現しているというふうに考えております。概ね1960年を境にして北海道では農林水産業をはじめとして炭鉱の閉山、ローカル鉄道路線の廃止、学校・医療機関の統廃合など地域産業の破壊とそれに伴う雇用・失業・生活問題が一層深刻になっております。こうした事態が、政府・財界の押し進める北海道開発政策によってもたらされていることはいうまでもないことでございます。それと同時に、このような厳しい状況の中で農協や生協をはじめとする協同組合の活動とそこで働く労働者の運動、そして新しい仕事を発見しつくりだしそれを地域づくりに結び付ける協同運動、子育てのための父母と先生の協同活動、さらには医療や福祉を充実させる運動など、実に多くの協同運動が様々な地域や職場で発展しつつあります。そこで、これらの優れた多くの実践を相互に交流し、協同のネットワークとして発展することができれば、協同活動の輪が一層

拡大するということが期待されると思います。

この集会の内容も、そのような目的で組み立ててまいりました。まず、全体集会では北海道の協同組合運動の歴史に学び、その現状をふまえて展望を明らかにするという趣旨で北海道大学農学部の太田原先生に、協同組合論の研究者の立場から全体報告で解明していただくとこになったわけでございます。そのあとで協同活動の全国的な先駆的実践に学ぶという観点から、宮城県石巻地区中高年事業団、北海道の別海厚生企業組合のとりくみ、そして労働者協同組合をめざす企業組合の実践をそれぞれ報告していただきます。また、午後は3つの分科会に別れてそれぞれのテーマに基づいて実践報告を中心に報告と討論をすることになっておりますが、今日お配り致しました資料集をご覧いただきましても大変内容豊かなすばらしい実践報告が寄せられたということで、私どもとしても大変喜ばしく思っている次第でございます。

## 協同活動の蓄積からネットワークへ

今回の協同のための北海道集会を準備する中で、その特徴として浮き彫りになってきた点としては、いくつかございますが、まず第一に、北海道には実に多彩な協同活動が蓄積されているということでございます。その基礎には、北海道の産業や生活をめぐる条件の厳しさが逆に協同活動を促すということに結び付いたということもいえると思います。その意味で、後に太田原先生が触れられますように、まさにコープアイランドといえるほどに協同活動の先進的実践を蓄積してきたということがいえると思います。それと同時に様々な協同活動がさらに相互に交流する機会がこれまでは意外に少なかったということも確かでございます。今回の集会はこのような豊富な協同活動のネットワークをつくる契機になればということも、思いとしてあるわけでございます。

## 先進的な実践に学ぶ

それと同時に第二の特徴として、全国の優れた先進的な実践に積極的に学ぶことも大切であると思います。この点で特に注目されるのは近年、労働者協同組合運動が世界的に発展しつつある中で特に我が国では急速な発展を示していることでございます。働く人々が自らの力で民主主義に基づく協同活動を行う労働者協同組合は、協同組合運動としても全く新しい実践であり、将来に向けて大きな可能性を持っていると思います。この点については最近黒川俊雄先生が――今日この場にもおいでになっていらっしゃいますが――『今なぜ労働者協同組合か』という本をお出しになっておりますのでぜひ参考にしていただければと思います。

第三の特徴として、この集会には様々な分野から多くの方々が参加しておられますが、その中で多くの研究者が結集しているということも実行委員会の委員の顔ぶれをご覧いただいただけでも明らかであると思います。これは激動する世界情勢の中で、協同組合の歴史的役割が学問的にも高い関心を呼び、そういう中で昨年開かれた第30回の国際協同組合同盟大会におきましても、ベーク氏が非常に興味深い提起をしているということも関心が高まっている一つの条件ではないかと思います。新しい発展を示しつつある協同運動は一つひとつの実践が先駆的な意義を持っていると同時に、そのような実践を基礎にしてその発展や条件についての理論的解明がたいへん重要な役割をになっていると改めて思うわけでございます。これを機会に、理論と実践の交流の機会を北海道で恒常的につくることができれば、北海道の協同運動の発展にとってたいへん有意義なことではないかと期待している次第でございます。

最後になりましたが、この集会に向けて、多くの団体、そして個人の方々から寄せられたご協力とご支援に心から感謝の意を表しますとともにあわせてこの集会が今後持続的に開催され、発展することを希望致しまして開会のあいさつに代えさせていただきます。